

令和2年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）
議事録

日時：令和2年7月14日（火）13:27～15:39

場所：三田共用会議所

1. 開 会

事務局より研究評価委員会分科会（第二部会）委員の紹介
国土技術政策総合研究所 所長挨拶
以降の議事進行：主査

2. 評価方法・評価結果の扱いについて

事務局より、評価の目的および評価方法・評価結果の扱いについて説明

3. 評 価 <令和3年度新規事項立て研究課題の事前評価>

（1）「浴槽レス浴室のバリアフリー基準に関する研究」

国総研より、資料について説明。

【質疑応答】（●：委員側発言 ○：国総研側発言）

- 本研究において、浴槽レス浴室への改修にかかるコスト面についての検討も行うのか。
- 改修についても力を入れることとしており、コスト面やバリアフリー化に向けた工法、工事の仕方についても検討する計画である。
- 入浴中の事故について、ヒートショックよりも、冷えた体を温めるために長時間入浴し、熱中症になるという説が有力と報告されている。
- 浴槽レス浴室を普及させるには、設計ガイドラインに浴槽レス浴室単独でなく、断熱改修等とあわせて記載する必要があると考える。
- 本研究では、浴室内だけでなく、脱衣室、またそこに至る連続した空間を一体で検討することにしており、断熱改修等についてもその中に含まれているので、設計ガイドラインにはあわせて記載するようにする。
- 浴槽レス浴室について、受け入れやすい地域、そうでない地域、地域性があると思うがどうか。
改修にかかる経済的な制約や日本はお湯に浸る文化が強いことがあるが、これからの生活様式の変

化などを想定して上で、どのような形で浴槽レス浴室を普及させていくのかについても検討された。

○地域性に関しては、文献等で南の地域ではあまり浴槽に浸からないというような記述もある。また、若い世代では浴槽離れのような話もあることから、現在30、40代である方の中には浴槽をとってもよいと考える方がいると考える。これから改修するという世代を主な対象と想定しており、例えば子供の独立後にどうしようかというときに、改修メニューの一つとしてこの浴槽レス浴室を提案したいと考えている。

●建物のあり方（単身向け、二世帯住宅、介護施設）によってニーズが大きく異なると考える。浴槽レス浴室の改修することの効果期待できるのはどのようなパターンかについて整理されると普及につながると考える。

○想定しているパターンの一例として、他の家族は浴槽につかりたいという場合は、高齢者の方がいる部屋の押し入れを浴槽レスのシャワー浴の浴室に改修してそこを使用し、家族は既存の浴室に入るという改修もあると考える。様々なパターンがあると考えられるので、その点についても整理した上で、色々なメニューを提案したいと考える。

●現在あるシャワーユニットのバリエーションは多くはないと思うので、どのようなものがあるのかを把握した上で、新たな浴槽レス浴室の基準に対して現在あるもので対応できるのか、また、新たな仕様のものである必要があるかについても留意いただきたい。

○本研究の中で、既存製本の使用性能等を調べて、どのような安全性を担保しているかについてマッピング等を行うことで整理したいと考えている。その上で、基準の検討を行いたいと考えている。

（2）「都市関連データのオープン化と利活用の推進に関する研究」

国総研より、資料について説明。

【質疑応答】（●：委員側発言 ○：国総研側発言）

●本研究では、物的なものに関するデータを対象としているが、市街地の脆弱性等のシミュレーションを行う際は人口属性等のデータも必要となってくる。本研究の先の話かもしれないが、社会経済的なデータとの連携についてはどのように考えているのか。

○都市計画基礎調査の場合は、建物に関連付けられているデータもあれば、面的にどれぐらいの人口がいるのか、高齢化率はどれくらいかなどのような、あるエリアに対して関連付けられているデー

タもある。エリアの属性と建物の属性とのマッチングを行っていくことは重要であることから、これらをリンクさせるような使い方についてもマニュアルなどに記載できればと考える。

●拡張仕様の属性データについてどれくらいの詳細レベルを想定しているのか。例えば、構造の分野では耐震診断データや構造種別データなどの情報を可能な限り入手したいところだが、個人情報の保護の観点から開示してもらえずスタディーの実施が難しい状況にある。許諾なしに入手出来る情報のレベルで、シミュレーションの精度の改善が見込めるものなのか、それとも個人情報保護が大きなハードルになるのか。

○個人情報の取り扱いについて、都市計画基礎調査の情報を公開する際には、建物1棟ごとに様々な属性データが関連付けられているものをそのまま公開することは難しいため、現状では地区単位で集計したものなど、個人情報に配慮したデータが公開されるのが一般的と思われる。ただし、デジタルツインの基となる3D都市モデルを用いて、実際のシミュレーションを行うには1棟ごとのデータが必要である。そのため、属性データを3Dモデルにどのように関連付けるかという検討をするとともに、詳細なデータをオープンにするか否かの議論は別途おこなうことになると考えている。

●日本の市街地は日々更新活動が行われているが、3D都市モデルについてどの程度の更新頻度が必要であるか。また、土地などの開発履歴はシミュレーションを行っていく上で重要と考える。3D都市モデルにおいて最新データだけでなく過去のデータに遡ることができるよう履歴管理についても検討されるのか。

○更新頻度は、ある程度高める必要があり、例えば近い将来の自動運転用の地図データのように常に最新データに更新されていくものも予想されるため、そのようなデータを活用できれば数年ごとに更新するのではなく、それ以上に高頻度にデータを更新できる可能性がある。また、履歴管理のような概念については手薄となっている部分であるものの、必要性が高いものであるため、建物・土地利用について履歴管理が出来るものを検討したいと考える。

(3) 「既存建築物における屋根ふき材の耐風診断・補強技術評価に関する研究」

国総研より、資料について説明。

【質疑応答】 (●：委員側発言 ○：国総研側発言)

●風圧力のレベルに応じて耐風性能水準をかき分けるとのことだが、それぞれについてコスト面についても検討されるのか。耐風補強の効果とそのコストの関係を示せると補強促進には有効と考える。

○風圧力のレベルが上がるほど、留め付けのピッチが細かくなったりするので、材料費というよりはむしろ施工費（人件費など）の方で効いてくる。同一の構工法であれば、全体の中に占める補強の効果に伴うコストの増加分はそれほど大きくないと思う。マニュアルの事例の中で、可能であればコストの観点についても取り入れたい。

●一次診断に入る前に、診断の必要性を簡易に判断できる築年数などの分かりやすい目安があると耐風診断の実施へ適切に誘導できると考える。

○スライドの診断フローの一次診断の上に被害リスク要因（立地条件、部位、構工法等）を挙げているが、構工法などは建築年・築年数に応じて決まってくるところが大きい。また、メンテナンス履歴の有無も重要な情報であるので与条件として取り入れたい。

4. 意見交換

<省略>

5. 閉 会

国土技術政策総合研究所 所長挨拶